

平成27年度協働事業報告会（27年度事業実施分） 質疑応答

「2015心をひとつに～つなげようみちのくの未来へ～」(市民活動団体提案協働事業)

(3.11ALL鎌倉実行委員会 / 地域のつながり推進課)

- Q 中学生防災サミットは提案の時にはなかったが、この案はどのような経緯で出てきたのか。また、鎌倉市内の中学生はどのくらい参加したか。
- A (団体) 去年は防災講座を行ったが、会議室が開催地と別の場所だったこともあり参加者が集まらなかった。今年は工夫しようということになり、以前から実行委員の中で提案されていた中学生の防災意識の向上をテーマにサミットを実施した。
- A (担当課) サミットには鎌倉市内12校31名(生徒の居住地は不明)が参加、傍聴は30名だった。
- Q 中学生を集めるのは大変だったと思うが、担当課はどうやって中学校を説得したのか。
- A (担当課) 繰り返しこの事業の良いところを説明した。中学校の校長会に複数回出席した。開催時間を半日にするなど、先方の要望を聞きながら、中学生の負担を減らすよう工夫した。
- Q 教育委員会等に調整が必要だったと思うが、他課や他部との調整がとれたところ、とれなかったところ等を知りたい。
- A (担当課) 学校教育との協働について理解を得るのに時間を要したが、事業内容が良いということで積極的な協力を得られた。当日も部長や職員、校長先生が出てきて下さった。また、その他にも総合防災課の担当課長と職員が当日ブースに参加し、啓発に務めた。
- Q 報告書に「中学生サミットについては属人的な対応になってしまった」とあるが、市が段取りをしたため主体性が持てなかったという意味か。
- A (団体) 実行委員会の中で、企画担当者が10名程度しかおらず、皆空いた時間でボランティアをしているため、防災サミットに限らず、会計担当、出店担当等、担当毎に委任する形にならざるを得なかったという意味である。
- Q 金銭的な支援以外で、こういうことがあれば更に良かったというものはあるか(例: ファシリテータや会計等専門知識を持った人材の提供、アイデアの提供等)
- A (団体) 収益を得る目的ではないので、金銭面は問題ではない。本来防災の担当課と協働できたら良かったが、後援、協働事業、主催、共催など一般人でも分かる言葉が庁内の人に誤解されている。実行委員会の人間からすると、庁内の人にそれぞれの意味の違いを理解して欲しい。